

連携だより

令和元年 11 月号

令和元年11月1日発行

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <https://kure.hosp.go.jp>

E-mail 506-kure-renkei@mail.hosp.go.jp

理念

相手の心情に寄り添う愛のある医療を笑顔で実践します
Practice medicine from the heart,
create smiles every day

運営方針

LOVE and SMILES



11月の花 シクラメン



今月号のトピックス

■「第4回 地域医療連携のつどい」を終えて

地域医療連携部長 中野 喜久雄……………1

■「脳ドック」開始のお知らせ 経営企画室 木谷 朱里……………5

■「遺伝外来」開設のお知らせ 遺伝外来担当 広島大学病院
遺伝子診療部特任教授 檜井 孝夫……………6

■新採用医師紹介……………8

「第4回 地域医療連携のつどい」を終えて



地域医療連携部長
中野 喜久雄

秋の夜長、冷え込む日も増えてまいりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

さて此のたび第4回地域医療連携つどいの会を10月10日にクレイトンベイホテルで開催させて頂き、73医療機関126名の院外の方と院内97名の計223名の方に参加頂き盛会理に終えることが出来ました(図1)。これも一重に当院と連携して頂いている皆様方の御協力の賜物と感謝している次第です。

開催当日は下瀬省二 院長の挨拶(図2)に続き、御多忙のなか御越し頂いた玉木正治 呉医師会会長に呉の地域医療構想などについて御話して頂きました(図3)。そして今年、就任した讃岐美智義 麻酔科科長(図4)と重松英朗 乳腺外科科長(図5)の挨拶がありました。特別講演としては、当院の総合診療科外来を担当して頂いている広島大学総合内科・総合診療科講師の岸川暢介先生に「病院総合診療医とプライマリーケア」の演題でお話をして頂きました(図6)。連携施設の皆様に今後、この当院総合診療科を更に活用して頂ければと思っています。

つどいの会の前半の終わりに、清水洋祐 地域医療連携室長が当院の連携状況についてのアンケー

ト結果を報告しました。そのうち一般外来の予約が取りにくい診療科は、前回のアンケート結果とほぼ同様でありました。早速、その結果を当該診療科へ伝え、特に町野 精神科科長に御尽力を頂き、予約枠の拡大を計って頂きました。また紹介患者に対する当院からの返事状況、いわゆる返書率は、85%の方から、いつも届くという回答を頂き（図7）、予想以上に高い結果で少し安心しました。これに関しては、昨年から医局会で返書を書いていない診療科名と医師名を公表していますので、その効果が少しは出始めたかなと思っています。しかし、100%が求められることなので、更なる工夫が必要と思います。そのため連携施設の皆様には、忌憚のない御意見や改善策をドシドシ寄せて頂きたいと思います。

つどいの会の後半は森脇克行副院長による乾杯の発声後（図8）、懇親会が始まり、多くの連携施設の皆様方と当院職員とが和やかな雰囲気のもとで熱く語り合い、いつまでも話が尽きない状況でした（図9）。

最後に、この集いの会の必要性について2016年の最初のつどいの会から行っているアンケート結果を示しますが、第1回目が40%、第2回目が60%、そして今回が71%と増していました。これは、連携施設の皆様と直接お会いしてお互いの気持ちを理解し合うことが益々重要になってきていることだと思います。今後とも下瀬院長をはじめ全職員が、連携施設の皆様と心の通った強固な医療連携を目指してまいりますので御指導と御鞭撻を宜しくお願いします。



図1 第4回地域医療連携のつどい



図2 下瀬省二 院長の挨拶



図3 玉木正治 呉市医師会長の挨拶



図4 讃岐美智義 麻酔科科長の挨拶



図5 重松英朗 乳腺外科科長の挨拶



図6 岸川暢介 広島大学総合内科・総合診療科講師の挨拶

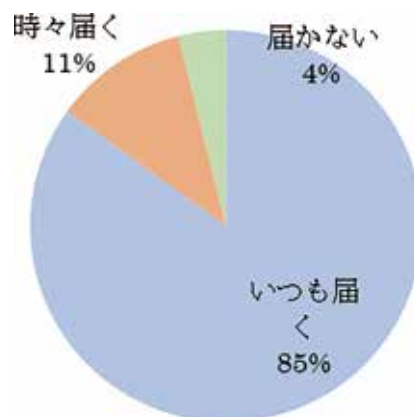


図7 紹介患者に対する当院からの返書状況



図8 森脇克行 副院長



図9 懇親会



図9 懇親会



地域医療連携室スタッフ一同

「脳ドック」 開始のお知らせ



経営企画室
木谷 朱里

令和元年10月から「脳ドック」を始めました。

「脳ドック」とは、脳の病気を調べる健康診断（脳検診）のことで、MRI(Magnetic Resonance Imaging：磁気共鳴画像診断装置)を使用して強力な磁石でできた機械の中に入り、磁気を利用して脳の画像（MRI）及び脳血管の状態（MRA）、頸動脈MRAを撮影する検査です。

「脳ドック」は脳の病気を見つけるだけでなく、予防するための検査でもありますので、若い方や自覚症状のない方も健康管理のための脳ドックをおすすめしております。日本人の死亡原因で上位にあがる脳血管疾患は、命の危険にさらされるほか、脳卒中は、一度倒れると運動麻痺や感覚障害など後遺症が残る場合が多く、生活の質が大きく損なわれます。

脳ドックで発見される代表的な異常としては「無症候性脳梗塞」と「未破裂脳動脈瘤」があり、これらは自覚症状がなくても脳卒中になる危険性があります。

○予約方法について

完全予約制となっております。

ご希望の方は、地域連携室：**0823-22-3816** までご連絡ください。

○検査料金について

金額は、**26,230円**（税込）となっております。

※撮影した画像（CD-R）のお持ち帰りを希望される方には別途1,100円（税込）をお支払いいただきます。

○曜日・時間について

撮影は、土曜日の11：30～となっております。各月毎に撮影日が決まっておりますので、ご希望の方は、地域連携室にお問い合わせください。

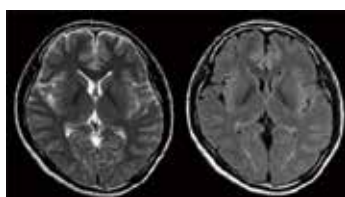
結果報告書を、後日ご自宅に郵送させていただきます。そのため、平日お忙しい方にも安心して受診して頂けます。また、結果説明をご希望の方には、金曜日の午後ご説明させていただきます。

○持参品

検査当日は、保険証と診察券（お持ちの方のみ）をご持参ください。

断面構造を調べる

脳の断面図を撮影することで、脳梗塞や脳出血、脳腫瘍などの異常を発見することができます。



異常所見なし



ラクナ梗塞

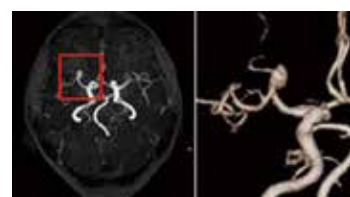
頭部MRI検査

血管を調べる

血管の様子を立体的に画像化することで、未破裂の動脈瘤や脳血管の狭窄などの異常を発見することができます。



異常所見なし



未破裂動脈瘤

頭部MRA検査

「遺伝外来」開設しました



広島大学病院
遺伝子診療部
特任教授
檜井 孝夫

保険診療となった「がんゲノム医療」について はじめに

2019年4月より、広島大学病院遺伝子診療部の特任教授に着任し、広島大学病院の「がんゲノム医療」の統括責任者をしております檜井と申します。本年6月より「がんゲノム医療」が保険適用となり、9月には広島大学病院が全国で34施設指定された「がんゲノム医療拠点病院」に中国地方から唯一選ばれ、中核拠点病院の岡山大学病院とともに新しいがん診療体制の構築ならびに人材育成を担っていくこととなりました。

呉医療センター・中国がんセンターも2019年4月より「がんゲノム医療連携病院」に指定され、今後、広島大学病院と連携しつつ呉医療圏の患者さんに「がんゲノム医療」という新しい診療を提供していく重要な役割を担っていくこととなりました。

(1) がんはゲノムの疾患

がんは遺伝的因子に加えて様々な環境因子（喫煙、感染症、紫外線など）によって細胞のゲノム（遺伝子）に様々な変化が蓄積し、その結果、正常細胞が悪性化して周囲組織に浸潤、他臓器に転移するようになります。人体の設計図である遺伝子は約2万種類で、そのうち約300種類ががんに関連しています。これらの遺伝子の変化を「変異」と言います。小児がんや血液がんなどで5-10個、乳がんや大腸がんなどで約30個、大腸がんや膵臓がんなどで約70個程度の遺伝子変異が起こっています。これら変異の中で、がん化にとても重要なものを「ドライバー遺伝子」といい、そこから合成される蛋白質の異常ががんの原因です。今から30年前、大腸でドライバー遺伝子の変異の蓄積によってポリープからがんが発生するメカニズムを「多段階発がん」として最初に報告したのが私の留学先、ミシガン大学の恩師Fearon先生ですが、今では多くのがんがドライバー遺伝子の変異によって「多段階発がん」することが知られています。

(2) 新しい抗がん剤「分子標的薬」

1940年代に最初の抗がん剤が開発されましたが、これらは正常組織に対して毒性があり、白血球減少、食欲低下、嘔吐、下痢、脱毛などの副作用が認められ「抗がん剤＝強い副作用」というイメージを持たれてきました。近年、がんの研究が進み、病的変異をもつドライバー遺伝子から合成された異常蛋白質を治療のターゲットとした薬剤「分子標的薬」が2000年ころから承認され、劇的な治療効果が報告されました。昨年のノーベル賞の受賞につながったオプジーボのような免疫チェックポイント阻害剤やその他、様々な蛋白質を標的とした薬剤が臨床応用され、がん治療は分子標的薬を中心に急速に開発が進んでいます。

(3) コンパニオン診断と遺伝子パネル検査

分子標的薬を使用する場合、コンパニオン診断と呼ばれる薬の効果を予測する遺伝子検査を行うことがあります。最も進んでいるのが肺がんの領域で、EGFR, ALK, ROS1, BRAFという4つの遺伝子を同時に調べる検査がコンパニオン診断薬となっています。2000年頃、13年の歳月と3000億円の費用を要して人の全遺伝子解読が終了しましたが、それから約20年経った現在、次世代シーケンサーという機械が開発され、約10万円（300万分の1の費



用)で同じ検査が可能になりました。がんゲノム医療では次世代シーケンサーを使って100-300種類の遺伝子を一気に調べます。その検査の結果で、分子標的薬の効果を予測して、その人のがんに合わせた治療を選択するのが「がんゲノム医療」です。

(4) 「がんゲノム医療」の特徴と問題点

がんゲノム医療で使われる「がん遺伝子パネル検査」は、標準治療のない固形がん（原発不明がんや希少がん）、ならびに標準治療終了または終了見込みの切除不能な固形がんの患者さんを対象に保険適用となりました。保険でも56万円（3割負担でも168,000円）ですが患者負担は大きく軽減しました。「がんゲノム医療」の大きな特徴として、パネル検査で得られた「ゲノム情報」を国立がん研究センター内の「がんゲノム情報管理センター」に登録することが保険適用の条件となっています。これによって遺伝子変異に適合した臨床試験の情報を患者さんへの報告書に盛り込むことができます。同時に、このデータベースを様々な研究に役立てることが出来ます。

「がんゲノム医療」の問題点がいくつか指摘されています。一つ目は、約半数の患者さんで治療対象となる遺伝子変異が見つかりますが、実際に治療が受けられるのは10-15%程度です。欧米に比べて臨床研究が少ないことが一つの原因と考えられます。二つ目は、検査が受けられるのは「がんゲノム医療連携病院」や「拠点病院」に限られていることです。幸い呉地区では、当院が「がんゲノム医療連携病院」に指定されましたが、広島県内でも地域によっては連携病院がまだないところがあります。三つ目は、遺伝子パネル検査の二次的所見として遺伝性の腫瘍が判明することです。判明すること自体は、患者さんやその家族にとっては、がん検診や健康管理をする上で有用な情報となりますが、患者さんが必要とする「遺伝カウンセリング」ができる体制の整備が急務となります。遺伝カウンセリングができるのは臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーですが、認定遺伝カウンセラーは県内に2名しかおらず、全国的にも不足しています。広島大学大学院に、認定遺伝カウンセラーの養成コースを2021年4月から開講できるように、現在、準備を進めているところです。

(5) 呉医療センターの役割と今後の展望

「がんゲノム医療」では医師、看護師、薬剤師、検査技師、カウンセラー、ソーシャルワーカーなどによる“チーム医療”が鍵となります。現在、広島大学病院との連携を強めて体制の整備と人材育成を行なっています。連携病院の役割は、窓口として患者さんの診察や検査の説明を行い、病理検体を提出します。検査そのものは検査会社で行なわれ、複雑な検査結果は拠点病院で開催される「エキスパートパネル」（専門家会議）で検討され、最終報告書が作成されます。当院では、その報告書を使って患者さんに説明し、治療につながるようにサポートします。同時に二次的所見（遺伝性腫瘍）の疑いがあれば、遺伝カウンセリングを行い今後の対応を検討します。今後、「がんゲノム医療」によって一人でも多くのがん患者さんがその恩恵を受けられるように、院内の診療体制の整備を進めていきたいと思っています。

消化器合同カンファレンス

日 時 令和元年 **11月6日（水）** 18:00～

場 所 呉医療センター・中国がんセンター 研修センター1・2

演 題 **肝・胆・膵及び上部下部消化管を対象疾患とし、
画像診断から手術・病理診断まで担当各科で検討。**

症例1：「黄疸を契機に発見された胆嚢癌、遠位胆管癌の1例」

症例2：「ESD後に追加切除の適応と診断された直腸癌の1例」

内科オープンカンファレンス

日 時 令和元年 **11月28日 (木)** 18:00~19:00

場 所 呉医療センター・中国がんセンター 研修センター1・2

医長講義 消化器内科医長 山口 厚

症例1: 消化器内科医師 小西 宏奈

救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者さんのご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平 日 昼 間 8:30~17:15 0823-22-3111

土・日および夜間 17:15~8:30 0823-23-1020

がんサロンのご案内

日 時: 11月8日 (金) 場 所: 外来棟4階 第3研修室
14:00~15:00 内 容: 「放射線治療について」

乳がんサロンのご案内

日 時: 11月28日 (木) 場 所: 外来棟4階 第3研修室
14:00~15:00 内 容: 「治療中の日常生活について」



新採用医師紹介

泌尿器科医師

福島 貴郁



専 門 泌尿器科

資格等

趣 味 サイクリング

ご挨拶

平成25年卒の福島です。出身は和歌山ですが、広島大学卒業後から広島・島根で勤務しました。呉での勤務は初めてになりますので不慣れなところもあるかとは思いますが、何卒よろしくお願い致します。

小児科医師

洲澤 彩香



専 門 小児科一般

資格等

趣 味 スーパー銭湯めぐり

ご挨拶

小児科後期研修3年目の洲澤彩香と申します。10月より呉医療センターに赴任してまいりました。呉ははじめて勤務しますので土地のいいところを発見するのを楽しみにしています。呉地区の小児医療のお役に立てますよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

産婦人科医師

菅 裕美子



専 門 産婦人科一般

資格等

趣 味 ハンドメイド

ご挨拶

広島大学病院から転勤して参りました。以前初期研修から3年間呉で勤務していましたので呉での生活を楽しみにしています。未熟ではありますが精一杯がんばります。よろしくお願い申し上げます。

よろしく
お願いします。





第113回



「がんサロン」のお知らせ



内容 放射線治療について



講師 放射線腫瘍科 科長 幸 慎太郎

日時 2019年 11月 8日(金)
14:00 ~ 15:00

場所 呉医療センター・中国がんセンター
外来棟 4階
地域医療研修センター第3



※申し込み不要
院内外問わず、どなたでも参加自由です。



＜お問い合わせ先＞

呉医療センター・中国がんセンター
がん相談支援センター
☎ 0823-24-6358
平日 9時～16時

TCSA勉強会

TCSA= Total Care Support Association

TCSAとは、感染コントロールチーム (ICT)、栄養サポートチーム (NST)、褥瘡防止チーム (PMT)、クリニカルパスチーム (CPT)のコラボレーションで、チーム医療の進化形です。

令和元年度 第7回

日時： 11月18日(月)18時～19時半

場所： 4階地域研修センター1・2

進行：TCSA委員長 山下 芳典

1.「周術期管理、特にサルコペニアと誤嚥に注意！」

講師：臨床研究部長

山下 芳典

2.「AMRについて」

講師：薬剤師

前田 龍人

「インフルエンザ対策について」

講師：感染管理認定看護師

新開 美香

皆さん、気軽にご参加下さい。
一緒に勉強しましょう!!

TCSA強会は、NST専門療法士試験の受験資格に必要な単位に積算されます。

問い合わせ先：呉医療センター・中国がんセンター

TCSA委員会 栄養管理室 平松 佑美 (PHS:7923)



第26回



「乳がんサロン」のお知らせ

内容 治療中の日常生活について

講師 がん化学療法 岡崎 可恵
認定看護師

日時 2019年 11月28日(木)
14:00 ~ 15:00

場所 呉医療センター・中国がんセンター
外来棟 4階
地域医療研修センター第3

※ 申し込み不要
院内外問わず、どなたでも参加自由です。

＜お問い合わせ先＞
呉医療センター・中国がんセンター
がん相談支援センター
☎ 0823-24-6358
平日 9時～16時



11月の時間外 研修会／勉強会



【連絡先】
独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 管理課 庶務係（教育企画室）
広島県呉市青山町3番1号/TEL:0823-22-3111/ホム-ジ：https://hure.hosp.go.jp/



研修会名		日	時	場	講師 ※敬称略	担当部署	院外参加	対象職種
消化器合同オープンカンファレンス 胆・肝・膵及び上部下部消化管を対象疾患とし、画像診断から手術・病理診断まで担当各課で検討。	11月6日	(水)	18:00～	地域医療研修センター1・2	呉医療センター・中国がんセンター 消化器内科 外科 放射線診断科 病理診断科	消化器内科	○	全職種
	11月11日	(月)	18:00～19:00	11Fカンファレンスルーム	呉医療センター・中国がんセンター 薬剤部薬剤師 星川 果南	薬剤部	院内向け	看護師 助産師 コメディカル
院内内視鏡セミナー 「内視鏡治療・処置（胆・膵）」	11月15日	(金)	18:00～19:00	地域医療研修センター1・2	呉医療センター・中国がんセンター 消化器内科医長 山口 厚	消化器内科・管理課	院内向け	初期研修医 看護師 コメディカル
第7回 TCSEA勉強会 「周術期管理、特にサルコペニアと誤嚥に注意！」 「AMRについて」 「インフルエンザ対策について」	11月18日	(月)	18:00～19:30	地域医療研修センター1・2	呉医療センター・中国がんセンター 臨床研究部長 山下 芳典 薬剤師 前田 龍人 感染管理認定看護師 新開 美香	栄養管理室	○	全職種
BLS（一次心肺蘇生法） 「CPR（心肺蘇生）」 「AED（自動体外式除細動器）」	11月25日	(月)	17:15～18:30	呉医療技術研修センター	呉医療センター 蘇生教育チーム	呉医療センター 蘇生教育チーム	院内向け	全職種 ※事前申込要 問合先：技術研修センター 高浜
内科オープンカンファレンス	11月28日	(木)	18:00～19:00	地域医療研修センター1・2	呉医療センター・中国がんセンター 医長講義 消化器内科医長 山口 厚 症例1. 消化器内科医師 小西 宏奈	内科	○	医師（初期研修医含む）

自己研鑽で専門性を高めましょう！



〒737-0023 広島県呉市青山町3-1

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

地域医療連携室

中野 喜久雄

森下 早苗

川島 美由紀

TEL: (0823) 22-3816

清水 洋祐

折本 陽一